OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新人・ベテラン
Author(s)	鴛淵, 茂; 黒河内, 好彦; 城, 鉄生 他
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 15, p. 22-23
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84580
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka



鴛淵　茂

4月から大阪府職員としてお仲間入りさせて頂くことになりました。生粋の大阪っ子として縦横の活躍をされた前任の橋本道夫課長と反対に，大阪は全く初めての新人ですので，皆様方のご指導を心からお願いする次第です。どうぞよろしくお願いします。

大阪にきて，まず第1の驚きは，たくましい実行力です。千里ニュータウン，堺泉北臨海工業地造成，府公衆衛生研究所，府成人病センター等，何れをみても，他所では，論議の段階にある時期にすでに実行に移されているのには感心させられました。第2の驚きは，大阪市の中心部を流れる寝屋川水系の汚染のひどさです。ごみ処理もあまりうまくはいっていないようです。これだけ実行力のある大阪で，川が汚れたり，ごみが堆積するのは不思議です。このようなことは，大都市に発展すればする程，さけられないことかも知れませんが，工場廃水の規制，し尿消化槽，下水道，塵芥焼却場等環境施設の整備を行なう一方，府民の公衆道徳の徹底によって，一日も早く環境浄化を行ないたいものです。

大阪は，やろうと思えばどんなことでもできる財力と実行力をもった有難い土地柄だと思いますし，幸い，職場の雰囲気も楽しく，理解のよい人達ばかりなので，私も，大阪人に仲間入りさせて頂いて大いに頑張りたいと存じます。

よろしくご支援の程をお願いいたします。

鴛淵　茂氏—昭和25年8月福岡県に就職，予防課防疫係，予防係長，防疫係長，性病係長，結核予防課予防係長兼精神衛生係長，その後昭和33年10月厚生省公衆衛生局防疫課，環境衛生部食品衛生課，医務局指導課を経て昭和39年4月大阪府衛生部環境衛生課長。



黒河内　好彦

騒音も，煤煙もない，緑の街で，清潔な店があり，食中毒や伝染病の心配のない，蚊やハエになやまされない環境で，明るい燈火のもと，健康な子供といっしょに暮していけるというのは私たちの生活の夢の一つであろうと思っております。あるいはみはてぬ夢の一つであるといわれるかも知れません。

日夜，公衆衛生関係者はこのために努力をつづけているわけでありますが，公衆衛生関係にも，各方面のあい路が今後も多種多様であることが予想されます。

この時期に，はからずも，予防課長を拝命いたし，どのように対応してよいのかとまどっておる次第であります。

そこで，今考えている一，二をのべて，この稿を求められた責をはたしたいと思います。

保健所の地位は，赤ちゃんの健康相談，結核検診，生ワク投与，コレラ対策，そ昆駆除対策などの経験を経るにしたがって，次第に向上しております。また市民の認識も新たになり，各種要望も多くなってきております。

したがって保健所の意見が，希望が，計画立案の段階で充分にとり入れられるべきだと考えております。

言うは簡単で行なうに難しいことも多かろうかと思いますが，努力いたしたいと考えております。

また，予防課としましては，伝染病関係，予防接種業務関係，結核関係と，大きな予算のあるところなので，その運営については，大いに勉強しなければならないと考えております。

現状のみならず，近い将来の対策をも考えていかねばならずできるかなあと心配をしております。

何卒，今後とも，皆様のご指導，ご鞭達をお願いいたします。

黒河内好彦氏—昭和22年5月，大阪市に就職，桃山病院，桃山市民病院小児科医長，市立大学講師，港保健所長，西成保健所長を経て昭和39年7年衛生局予防課長。



城　鉄生

大阪府に勤めるようになってから７年ちよっとの私は，前任地の四国を通算すると，かれこれ四分の一世紀近い年月が経っているので，もしも，ベテランということの意味が手腕よりも，むしろ年季にウエイトがおかれるとするならば，この欄でものを書く最低の資格があるかもしれない。

私が公衆衛生（その頃はこんな言葉はあまり使われてなかったように思う）の陣営に投じたのは支那事変も漸く泥沼にはまり込んだ頃で，当時，衛生行政の重点は長期戦にそなえてもっぱら人的資源の確保におかれ，国民体力の増強と生めよ殖やせよの一点張りであった。今日家族計画の浸透に思いを致すとき，今昔の感無きを得ない。

さて終戦間際になって召集を受けた私は南方から復員してみると待ちかまえていたように命令されたのが性病担当官としてダンサーの検診をすることであった。それまで人権軽視などと受ける側でもめていたようだが，若い米軍中尉のドクターの鶴の一声で事は運んだ。これが進駐軍の権力を目の前にみた最初であり，軍政部の撤収と同時に検診も立ち消えとなったことはいうまでもない。

伝染病の集団発生や何か問題が起る度に四国の山坂をジープに乗せられて，夏はよいが冬の寒風をついての随行は栄養不足の身にとっては，相当にこたえたが，幸い軍医がおだやかな紳士だったので助かったことを記憶している。

戦後脚光をあびてここまで伸びた保健所も昨今曲り角にきて，技術員の確保，公害か私害か境の不明な問題，さては犬の苦情まで保健所もいろいろとしんどいことである。

城　鉄生氏―昭和14年４月，愛媛県に就職，愛媛県予防課長，大阪府泉佐野保健所長，八尾保健所長を経て昭和39年４月布施保健所長。



荒井　惇

この原稿が活字になって，みなさまの眼にふれるのはおそらく９月になると思います。そうすると，私が保健所長に任命されて，市内の保健所を３カ所まわって今４つめの北保健所勤務をあわせて，丁度16年経ったことになります。よく私は「ベテランの所長」といわれるのですが，ベテランという言葉は何かいいところがあるようなひびきもあるようですが，私の場合は何だか古いだけで「能なし」といわれるような気がしてなりません。いつも働らきがたりないと思っているせいかもしれません。

しかし，16年も保健所長をやってますと，いろいろとその内容も変化し，仕事の量もふえたし，社会的な重要性も大きくなってることを痛感します。殊に大都市にある保健所のあり方などは，昭和23年に大阪市が大勇断をもって，衛生行政の一元化を実現し，保健所の独立を実施して以来の，重大な時機に直面していると考えます。

16年前に新発足した保健所に若い所長として赴任するにあたり，衛生局の機関誌に，「保健所の行政」と題して小文をのせたことがありますが，それにはこう結んであります。

「技術家のフィルターを透した衛生行政，これがどのように発展するか，果してうまく育つかどうか，これはわれわれ保健所員の努力のみで解決出来るものではない。衛生行政は特に一般市民の理解協力がなければ云々……」。

荒井　惇氏―昭和13年１月，大阪市に就職，西今宮健康相談所，鶴町小児健康相談所長，此花保健所，衛生局保健課保健係長，同予防係長，旭保健所長，西成保健所長，南保健所長を経て，昭和38年７月北保健所長。